へら鮒

http://www.herabuna.cc/

1月号 Jan.2008 No.505

■カラー■

2 イントロ 特別寄稿・佐藤徳通 ～徳さんからのメッセージ～

34 石井旭舟 へらぶな浪漫街道
《第六十回》徳島県・打樋川（うてびがわ）

40 小池忠教 激釣の急所
《クライマックス特別編》激釣!! 浅草へら鮒会最終例会

46 《新連載》生井澤 聡 挑戦者魂
《第1回》【千葉県・小櫃川】初冬の野川で巨べらを獲れ!!

52 《新連載》小林恭之 ノルマでGO!!
《第1回》休日の筑波湖で頭を獲れ！

58 早川浩雄「鉄壁・早川スタイル」
《第6回》初冬の横利根川、バラケ&グルテンの底釣り

61 ★AREA REPORT
吉川へら鮒センター（埼玉県） 本誌・伊藤洋一
赤祖父湖（富山県） 山本一朗
三川フィッシュパーク（岐阜県） 後藤 誠
大杉ダム（兵庫県）、江北の新堀（佐賀県） 前田誠志、河口正伸

62 63 64 竹とともに生きる。
《最終回》「紀誠集」 和佐成記さん

134 G杯争奪全日本へラブナ釣り選手権 富里乃堰

137 戸張 誠 関べら戦記2007
【10月例会 三島・豊英湖 低調 11月例会 三島・豊英湖 勝運】

140 岡田 清 Deep Side Angle
《Vol.46》【深淵なるウドンセット】野田幸手園

147 田辺哲男 MYへら道
《へら道その十一》千代田湖の「信玄べら」を釣ってみたい！

152 《新連載》天野正由 緑萌ゆる釣り場を巡る
《第1回》深まる秋 鎌北湖&円良田湖

156 《新連載》棚網 久 全開MAX
《第1回》鵜沼堰で全開!!（千葉県）

193 ダン へら名人 クラブ対抗ペアへら鮒釣り大会 羽生吉沼

201 北川穂積 西の交友録
《第二十四回》ゲスト：松下氏 釣り場：勝成池（兵庫県）

202 リニューアルした狭山へら鮒センター

205 釣果予想クイズ

206 フィッシングレディ
《今月のレディ》大廻美也子さん 神扇池

207 ■モノクロ■

66 《新連載》特別企画 へらウキが出来るまで
《第一章》ウキを考察する

74 へら鮒釣り 超基本講座
《第34回》ウドンセット編

81 椎の木湖フレンドシップ選手権

86 ガチンコ道場
《第26回》ガチンコ道場大改造計画!!

98 江成公隆のトーナメンター、復活への道。
《Vol.67》現実。

102 水辺のプラネタリウム 吉本亜土
《今月の星空》「清炒蟹粉」

107 最狂へラ戦士養成所"鮒の穴" 漢タカハシ
緊急企画 大激震！漢☆タカハシ鮒の穴破門！そして失踪。その真相を追え!!

110 《新連載》へら鮒Cafe 西田美明
《Vol.1》一等賞を引き当てる！

114 《新連載》永久釣りバカ宣言。 斉藤心也
《第1回》「「炎のチョーチン12番対決!!」を振り返って①」

116 水と戯れ、風と遊ぶ ホワイト
《第13回》田舎待放浪記

118 野田幸手園新聞

121 へら鮒専門店かわせみ 竹竿倶楽部「水凪」月例会&
へら学の森「泉園」 オープン2周年記念大会

161 ワクワク管理釣り場情報

170 小売店情報

175 ★へら鮒BOX
里ちゃんの新米編集長雑記

176 情報発信基地

179 ボイス

186 竿春会4会合同懇親会 清遊湖

187 コラム『日研だより』 日研広報部長・遠藤克己

188 コラム『上村流！』 上村恭生

189 コラム『紀州 想いの竹』のものがたり』 中峯伸行

190 プレゼント発表

191 広告索引

192 編集後記

▶今月の表紙◀
angler：矢野 満
field：鬼東沼
photo＆layout：本誌・里

12 特集Ⅰ 本誌初登場・矢野 満が魅せる！ 鬼東沼28尺両グル底で怒濤の爆釣！
冬を制する"繊細&明解"両グル底釣り

22 特集Ⅱ 佐藤徳通の情熱を継承する男、登場。
加須吉沼で行われたゴールデンクラブ例会に完全密着取材！
牛山成二 正統派ウドンセット

29 特集Ⅲ 緊急特別対談、中澤 岳×萩野孝之。中国で開催されたビッグトーナメントに参加した二人が、その全貌を多いに語る！
第1回アジアへら釣り交流大會

釣り場割引クーポン券 p.163～

野田幸手園 椎の木湖 清遊湖 谷和原大沼 上尾園 F.A吉羽園 谷養魚場 将監 柳生FP 筑波白水湖 泉堰 逆井HC 友部湯崎湖 三和新池 川越FC 鳥羽井沼 大上へら池 霧の沼 小川つり堀園 府中HC 清川つくしFC 千代田湖・舟宿 千和 相模湖・釣舟 五宝亭 相模湖・釣舟 天狗岩 吉森HC 甲南へらの池 当麻池 水藻FC 朝日池 釣り堀八十八 精進湖・釣舟 金風荘 西湖・釣舟 白根 西湖・釣舟 丸美 西湖・釣舟 青木ヶ原

※杉山達也【SUPER SPLASH!】は誌面の都合によりお休みさせていただきます。

STAFF

●発行人
根本百合子

●編集長
田中里史

●編集部
大場勝良
諸冨一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●へら鮒NET
根本大作
八十田昌広

●企画
〈オフィス・えふ〉
藤原 肇

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆のトーナメンター、復活への道。

〈Vol.67〉

現実。

～第11回 椎の木湖フレンドシップ選手権～

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka

業界初、Web連動企画！ ～ほぼ毎週！～ 〈URL〉http://hcoor.yokohamatsurumi.net

いろいろありまして、結局、江成（左）、石井氏（中央）、鳥次氏（右）、里ちん（カメラ）の4名で「ドロンズ」というチーム名で参戦した今年のフレンドシップ。2006ジャパンカップ覇者である石井昇一氏が爆釣し、4位入賞を果たしました。でも、僕とアニキが「普通に」釣ってれば、優勝だったのに！

やってきました、今年のフレンドシップ！
ものすごい土砂降り＆激寒な1日でしたが、すったもんだした挙げ句に強力な助っ人2名を得て、「ナリーズ」ではなく、「ドロンズ」で参戦したアニキ。で、アニキと僕が猛烈に足を引っ張ってしまい…。石井さん、鳥次さん、ゴメンナサイ！ 締め切り明けで頭が真っ白だったのよ…。にしてもアニキ、そろそろ釣ってくれよ！（怒） by里ちん

フレンドシップ。

椎の木湖主催のフレンドシップ選手権大会が終わった。

さんざん参加を告知してきておいての当日のチーム名およびメンバー変更は、まだ先月号が発売されていなかった段階では非難の声もあったようだ。直前のドタバタ劇は先月号に書いたとおりだが、読者の皆様、関係各位にはあらためてお詫び申し上げたいと思います。ご迷惑をお掛け致しました。

僕が組んだ「ドロンズ」チームには、里ちんと僕に加え、ピンチヒッターとして昨年ジャパンカップ覇者の石井氏と、底釣りの神様北城氏率いるヘラメイトさんからエース鳥次氏が応援に駆けつけてくれた（石井さん鳥次さん、ありがとうございました！）。結果は、当日の個人最高釣果を叩き出したチャンプ石井氏の「肩にぶらさがって」というか「足を引っ張って」、4位となったように見えるが、実のところ「ロクに釣れないくせに、トップトーナメンターの力を借りて上位入賞を狙うセコい奴ら」という批判をかわすために必死だった僕にとっては、狙い通りの順位であった。しかしながらお立ち台ギリの釣果に調整するのはかなり難しく、一時間ごとのランキング発表の度に計算しながらの、とても疲れた一日だった!?（里ちん註：ウソです。アニキ、鬼の形相でウキを睨んでました）

チーム対抗の面白さは今まで何度も書いてきているが、それまで面識があろうがなかろうが、チームを組んだ以上「自分のためではなく」、「チームメイトのために」頑張らなければならないという普段の釣りではなかなかないシチュエーションが魅力である。まったくのお手上げ状態で、あと1枚釣れたところ

で焼け石に水と感じ、ふらふら歩き出すのは個人競技でなら構わない。いや、大会の士気を考えれば問題がないわけでもないが、仲間内のクラブの月例会レベルではよく見かける光景が、チーム戦では許されない。チーム戦は、最後の最後まで緊張感が持続する（させなければならない）独特の世界なのだ。自分も釣って釣果を積み上げていくので、自己犠牲という言葉はちょっと違う気がするが、とにかく仲間のため、他人のためにする釣りというのは、そうそうあるものではなく、「フレンドシップとは何なのか」をはじめ、諸々考えさせられることうけあいである。

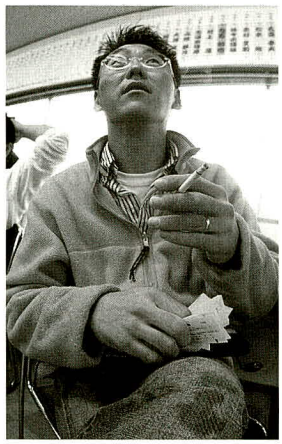
先月号で気になった点がある。僕のあの書き方だと、

「スーパースターチームでドタキャンしたのはいったい誰だったのか?」

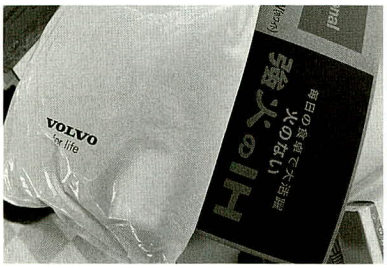
「本当に何らかの圧力がかかったのではないのか?」

という疑問が読者の中に残ってしまったのではないか、ということ。「平山幹事長が自虐的になるほど悩んだんですよ。悪い人じゃないんで勘弁してやって下さいネ!」という気持ちを込めて書いた二人の会話部分だったのだが、「笑い話に仕立てたとはいえ、あれじゃまるっきりドタキャン組へのイヤミでしかない。「反論出来ない誌面での攻撃は反則」という指摘を受け、なるほどそう取られても仕方ないかもしれない、と反省した。しかし、正直言って締め切り寸前の僕に、脱稿後の多角的な推敲は無理な話だった。「これがプロと素人の差」と、反省の二秒後には開き直るのが僕である。

実際のところどうなのかということだが、ドタキャン後も当初のメンバーと話をしているし、第三回ナリーズ杯への参加を予定してくれている人もいる。僕と彼らとのフレンドシップは揺るがない…ハズ!?



「ふぅー、優勝かぁー」
タバコをくゆらせ、財布に貯まった高速領収書を整理しながら結果発表を待つ江成。さんざん足引っ張ったクセに、その余裕は何なんだ!



フレンドシップ、とにかく賞品がスゴイです。抱えきれないくらいの賞品が、全チームに行き渡ります。そしてもちろん、上位に入賞すれば豪華賞品が。我々4位の賞品は、IH調理器に、梨に…そして、VOLVO！…のTシャツでした（笑）

新しい大義。

今年の（も）僕は全く釣れなかった。例年、トーナメントは惨敗続きで当然ながら貧果ばかりなのだが、それ以外では一年に一度くらいは束釣りがあった気がする。トップシーズンには月イチから月2へ増えることはあっても、年間平均で月2以上になることはない僕。そんな僕であっても、の話。それが今年は1束どころか50枚オーバーもなかったんじゃないだろうか。釣り人生始まって以来だと思う。もっとも自分の腕の問題もあるし、数が釣れる傾向の釣り場に出向いていないという面もあるが、大型化が進んでへらの絶対数の減った釣り場の多さも物語ると思う。

新規参入者から見たこの釣りへの「入りやすさ」を考えた時、おそらく釣り人側からの要望で始まったであろう大型指向は、大きな障害になる危険性がある。真冬の週末にオデコをくらい、池主に文句を言って帰る客というのは何度も見かけたことがあるが、大型ブームが到来して10年以上経ってもいまだに中・小型指向へ回帰しないところを見ると、大半の釣り人は現状で満足しているのかと思っていた。しかし、あいかわらず池に文句を言う客は見かけるし、釣りが終わったあとの宴会でフラストレーションをぶちまけない仲間はいない。池側だって、「アタラねぇ！　金返せ！」と言われ続けるよりは、やがて「へらが小さ過ぎてつまらねぇ」と言われるのは目に見えていても、いいかげん大型指向からの脱却を考えていても不思議ではない。ところが、トンあたりの単価も違って経営にも優しいはずの中・小型指向に回帰しないのは、もしかしてそのサイズのへらの生産（流通）量が少ないんじゃないか、という結論に達し

新作!!
慎重にテストを繰り返した底釣り専用タイプ。
杉山作初の美しいブラックボディで登場！
【底釣りスタイル】
杉山作
繊細な「底」を完全表現する専用タイプ。
●ボディは羽根2枚合わせ5.5㎜径。精悍な極薄ブラック塗装仕上げを採用
●ダイシン製ホワイトトップ（内径1㎜パイプ）採用。軽量かつ視認性大幅UP！
●サイズ：一番（T10㎝ B9㎝ カーボン足4.3㎝）～六番（T17.5㎝ B16.5㎝ カーボン足4.7㎝）
ワンサイズごとにバランスを突き詰めた設計で、スムーズなナジミと理想的な返しを実現！
●定価1本7,350円（税込）
取り扱い店〈五十音順〉
埼玉・越谷 かわせみ（☎048・969・5067）　茨城・下妻 こやの釣具（☎0296・44・1619）　東京・渋谷 サンスイ川釣り館（☎03・3499・5025）
埼玉・入間 へらの三水（☎042・964・2093）　栃木・益子 フィッシングハウスほその（☎0285・72・2215）　神奈川・川崎 鮒仙人（☎044・287・7470）
東京・吉祥寺 丸勝（☎0422・22・8923）　東京・青梅 吉川釣具店（☎0428・22・2467）

た。普通に考えると大きい個体は成長にそれだけの時間がかかるわけだから、稚魚を底辺としたピラミッドの頂点が大型であり、中間の釣りごろサイズは圧倒的に大型より多くの個体が存在することになるので、僕のはまさに素人考えということになるのだが、今後、そのピラミッドを崩す要因も思いつけば、あながちデタラメな推論とも言えないだろう。っていうか、業者に聞けば真実はすぐ分かることだけど（笑）、年末に向け、常識的な時間帯に私用をこなすことがとても難しい状況になりつつある今日この頃の僕だ。

そんなことを考えていたある日、第三回ナリーズ杯の打ち合わせをしていた平山氏の口から、賞金の一部を全放協へ寄付するのはどうかという提案が出た。僕は「これだ！」と思った。このままではいけないという焦りだけで立ち上げてしまった我々ナリーズにとって、最高の大義名分が出来た。この釣りの将来を憂うとき、底辺拡大が真っ先に思いつくテーマではあったが、何を企画すればいいのかはいまだ手探りであるのに対し、釣り場整備面にお金を使うというのはごくシンプルで分かりやすい先行投資である。僕は飛びついた。落ち込みで竿ツンばりに。

「テンション」総括2007。

フレンドシップ選手権の後、いつも立ち寄るうどん屋で、講師に昨年度JCチャンプ石井氏と、昨年度V杯チャンプの太田武敏氏を招いてちょっとした勉強会があった。いや、勉強会と構えて開催したわけではなく、お約束の釣りの後の雑談の中で両氏の話はとても勉強になり、メンバー一同大興奮したので、結果として勉強会だったな、ということである。さまざまな話題が出たが、誌面の都合で、というより締め切りの関係上ここでほとんど紹介出来ないのが残念。

僕がいつも先送りにしてきた「サソイ」。揉まれている中、ハリスを張らせてアタリを紡ぎ出す系ではなく、明らかにぶら下がって張っている状態からの、サソイと呼ばれる行為の中のもっとも一般的なアクションで得られる効果について、石井・太田両氏の共通の見解は、「リアクションバイトは否定しない」だった。ただし、「動いているものに反応する」というよりは、「故意に動かしたあとの、反動としてのテンションの緩和」に対して反応するのではないかという考察。これは全てをテンションという一言に集約させたかった僕的にはものすごく嬉しかった。もちろんがっついたへらが、目の前から遠ざかるエサに対して飛びつくというケースは、水中が見えるわけじゃなし、完全には否定出来ない。が、「基本的には」、「現段階の想像で」ということだ。これまで「サソッた分だけエサが動くわけはなく、テンションに何らかの変化が起こってへらにアピールする」と言う人はいても、何が変化するのかまでハッキリ言う人はいなかったのではないかと思う。

テンションが緩んだ瞬間（緩みはじめ）というのは、それまでのテンションがかかった状態を不自然な状態とするならば、一気に自然な方向へ転換することになり、へらのストレスも一気に解消方向へ向かい始める。これが「サソッてアタリが出るメカ」ということになろう。これは実は、中澤 岳氏が言う「ブレーキング理論」にも通じるもので、氏は高オモリ負荷のウキで一気にタナまで落とした（オモリに引っ張られてきた）エサが、タナでオモリのツッパリから解放される瞬間（自然度の転換点）を作り出すことが、キモであると説く。これを僕の11月号にあてはめてみると、「腕一本分くらいの激しいサソイ」は、高オモリ負荷のウキによる引っぱりと同じだし、チョーチンでよく見かける、持ち上げて降ろす縦サソイも同じ理屈だ。降ろした瞬間に竿ツンになるほどの消し込みという話はよく聞くが、持ち上げた瞬間に竿ツンとはあまり聞かない（ていうかそれは居食いされてたって話で）。

ここで考えなければならないのは、目の前のへらの活性がどこまでの激しいアクションや引っぱりに、ついて来られるのかということと、ついて来れるどころかより警戒して緩むまで見てくれない・遠ざかる危険性もあるということだろう。不自然度が高い状態からのテンション緩和は、その差が大きければ大きいほどアピール効果があるように感じるが、ものごとには限度というものがあるだろう。しかし新しい発見は、常識にとらわれずに一見無茶な実験を繰り返す人々の努力の結晶から生まれるのも事実である。

どんなに繊細なセッティングであったとしても、ハリとハリスがついたエサに本当に自然な状態は有り得ないから、自然度というより不自然度と呼んだ方がいいかもしれない。が、現在なら例えば道糸0.05でハリスが0.03とかで、周囲が沈黙する中ワケなく釣れる自然度に到達出来る可能性はある。しかし、やがてその自然度もへらの学習によって効果がなくなる宿命にある。イタチごっこだ。であるならば、トーナメントに使える耐久性と自然度とを、ある程度のレベルで妥協するのが賢い選択だということになる。今や当たり前のようにメディアに載る道糸0.6だの0.5（管理釣り場において）だのも、僕の子供の頃の教科書では考えられない世界であり、それが科学（工業）の進歩というものだが、現在の多くの釣り人の妥協点が0.6や0.5ということなのだろう。

もうひとつ妥協点として考えておかなければならないと思うのは、テンションが緩んだ瞬間のアタリの伝達性だ。まるっきりテンションが抜け落ちてしまっていたら、アタリは伝わらない。ここで思い出して欲しいのは、底釣りゼミでの「ゆるやかなテンション」という北城氏の言葉。低オモリ負荷の仕掛けでも、静止していれば水中では水圧によって常にラインは張っている（誤解されやすい表現だったが）ため、意外にアタリは伝わるもんだという話もあったが、状態によってはほとんど人間の目で判別出来ない動きとしてウキに現われることもあるだろうし、ナジミ込みの真っ最中なら、ハリスの位置によっては動きが伝わらない瞬間は間違いなくある。こう考えていくと、活性やセッティングに応じたサソイの量（というか幅）やスピードというものがあるらしいことが想像出来る。例えば縦サソイなら、消し込みで持っていくほどの反応があるならいいが、そこまでの反応がない時は、あまり大きく持ち上げるとアタリが取れない時間も長くなるリスクがあるということだ。単純に考えて、動きの鈍い時期を除けば、もっとも反応するのはおそらく自然度の転換直後だろうから、アクションが大きければ大きいほど、チャンスを捉えられないリスクも高まるという認識は必要だろう。

宙でも底でも、いや、へらに限らず、釣りという遊び全般に言えることだと思うが、「糸」を使って魚と対峙する以上、仕掛けのテンションは常に意識しなければならない筈である。…糸電話、生命線、命綱だ。

二十年以上前から、「ハリスの張りがすべて」というキャッチフレーズのもと、ナジミ際のウキの動きを明快に解いてみせていた小池忠教氏。本格的にへら釣りに取り組み直した頃、僕のお手本は当時もへら鮒に連載されていた小池氏の記事だった。そんなことを思い出しながら、僕は帰路についた。

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

・仕上がりは黒一色です
・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1.ぐりへら鮒会
2.ぐりへら鮒会
3.ぐりへら鮒会

・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴　舟　03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに

転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
２回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

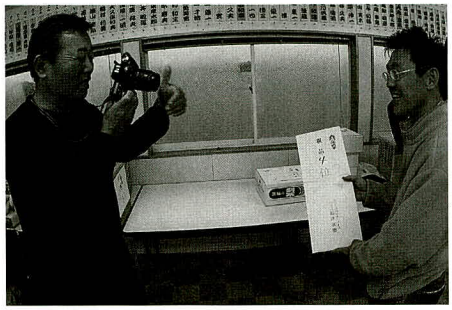
・8書体、8色を御用意しています
・角印も作れます

取扱店：
柴舟（東京都江戸川区）
03-3613-2727
佐伯釣具店（神奈川県川崎市）
044-911-3722
SANSUI川づり館（東京都渋谷区）
03-3499-5025
フィッシング中原（神奈川県川崎市）
044-711-8266
鮒仙人（神奈川県川崎市）
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com



〈おまけ〉
4位入賞賞品の中に週刊へらニュースさん寄贈のものを見つけた江成は、さっそくへらニュース記者さんを呼び付け、写真撮影を要求。へらニュース記者さん、すみませんでした。写真は破棄しちゃってください…

そして現実。

充実した釣りの後は、次の釣りが本当に楽しみになる。

そして、帰りの車中は「明日からウキを作るぞ」とか、「がっつりハリ結ぶぞ」とかも考えている。今まではまずやらなかった。しかし、会社にいる時間は変わらないが、だいぶ体力的には楽になった現在、帰宅後までエネルギーが残っていることが多い。

フレンドシップの後、僕は竿掛けと万力の改造に手をつけた。5年振りに新調したバッグには、ピカピカの道具を入れたいという心理も働いたため、最優先しなければならない筈のウキ作りを先送りにするところが僕らしい。

労働時間の改ざん発覚でちょっと話題になってしまった僕の会社は、コンプライアンスを徹底するために態度が180度変わった。それまで早出分のサービス残業は黙認というか、やらざるを得ないような状況に追い込まれていたわけだが、今回の騒ぎで「朝早く出社して来るな」ということになってしまった。

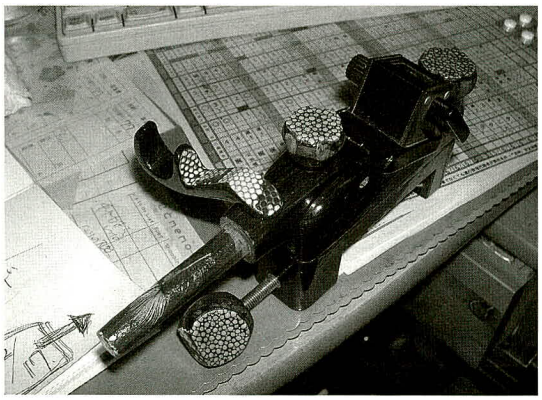
それでも業務量は変わらないから、結局ケツの時間がずれ込むことになる。会社の言うとおりやっての残業増で喜ぶのは部下だけで、管理者である僕は帰宅する時間が遅くなるだけ。「サ残」がイイの悪いのはここでは書かないが、「自分の時間」に再び目覚めた僕には迷惑な限り。そうこうしているうちに、年末の準備で一気に忙しくなって来た…。

サメ皮を貼って研ぎ出し、ヘビ革とカワセミの羽根を張ったところで時間切れ。竿掛けは研ぎ出しでミスった。今日はもう第三回ナリーズ杯。なんだかなぁ。でもま、今年最後の釣りを、じっくり楽しんで来るとしましょう。

というわけで里ちん、ちょっと短いけど今月はおしまい。今月だけ4頁でヨロピク♡

あのう…勝手に字数とかページ数を決めないでくれます、アニキ！（怒）　まったくもう…。それにしても相変わらずアニキの趣味はコテコテですねぇ…サメの研ぎ出しはイケてますけど。ま、どうせ完成しないでしょうけどねっ（笑）。

by里ちん



〈証拠写真〉

へら鮒釣りの楽しさを追究し続ける…

へら鮒

Monthly fishing magazine herabuna

No.505
Jan.2008
1

40年の歴史と、果敢なチャレンジ。
誌面刷新2008年号、
怒濤のトリプル特集でスタート!!

イントロダクション
特別寄稿:佐藤徳通
～徳さんからのメッセージ～

新連載 本誌特集で数々の伝説を打ち立てた男が、チャレンジスピリットをたぎらせ、ついに連載で登場!
生井澤 聡:挑戦者魂

新連載 希代のハイパーアングラーの連載スタート!
編集部から繰り出される無理難題をクリア出来るか!?
小林恭之:ノルマでGO!!

新連載 さすらいの夢追釣人、カラーで登場!
天野正由:緑萌ゆる釣り場を巡る

新連載 ミスターGがクールな仮面を脱ぎ捨てる!?
棚網 久:全開MAX

新コラム 楽しい読み物もさらに充実!
斉藤心也:永久釣りバカ宣言
西田美明:へら鮒cafe

特集Ⅱ 佐藤徳通の"情熱"を継承する男、登場。
加須吉沼で行われたゴールデンクラブ例会に完全密着取材!
牛山成二:正統派ウドンセット

特集Ⅲ 緊急特別対談、中澤 岳×萩野孝之。
中国で開催されたビッグトーナメントに参加した二人が、その全貌を大いに語る!
第1回アジアへら釣り交流大會

特別企画 「モノクロ特集」スタート!
毎月、いろいろなテーマを探求します!
ウキ作り試行錯誤

特集Ⅰ
冬を征する
繊細&明解
両グル底釣り

本誌初登場・矢野 満が魅せる!
西のストロングフィッシャーマンが
鬼東沼28尺両グル底で怒濤の爆釣!

へら鮒
2008
1
昭和41年5月4日第3種郵便物認可
第43巻第1号（毎月1回1日発行）
平成20年1月1日発行

冬を征する "繊細&明解" 両グル底釣り　矢野　満

定価　一〇〇〇円
本体九五二円
(株)へら鮒社

つれるエサづくり一筋
マルキユー

真冬の本命。

グルテン繊維がマッシュを抱え、深いタナまでしっかり持つ「本グル」。
水中で膨らんでもマッシュが残り、じっくり待てる。
だから、へら鮒の活性が低くなるこの季節、
数少ないチャンスをものにできる。
厳寒期、グルテンが有利な釣り場なら、本命は「本グル」だ。

●本グル　300g

マルキユー株式会社
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4
お問い合わせ　本社・桶川工場:048-728-0909　大阪支店:072-824-0909
四国営業所:0877-44-0909　九州営業所:0942-82-0909
ホームページアドレス　http://www.marukyu.com/
釣り場でエサに困ったら iモード・ホームページ http://www.marukyu.com/i
釣れるヒント満載!!
へら鮒天国
マルキユーホームページ内の「へら鮒天国」では、新鮮な釣果情報を掲載中。あなたのお気に入りの釣り場の情報が、見つかるかも。
http://www.marukyu.com/　マルキユーへら鮒メールマガジンも、お申込はこちらから。

雑誌　07907−1
4910079070186
00952